

子どもの遊びを考える

「冒険遊び場を通じて」



子どもの遊びに迷う

ながはま冒険あそび場は、毎月第3土曜日、豊公園の一角で活動しています。平成23年の12月に市内在住の子をもつ母親4人で立ちあげました。

「私が子どもの頃は、田んぼで近所の友だちと鬼ごっこやボール遊びなど、暗くなるまで遊んでいました。でも今の子どもたちは、家の中でゲームをしたり、形の決まった遊びに頼りがち。外に出て、公園では『ボール遊び禁止』など禁止事項が多く、伸び伸び遊ぶことができない子どもの姿に不安を覚えています。また一方では、子どもたちのちよっとしたやんちゃにも、汚してはダメ、危ないことをしてはダメなど、ついつい子どもたちの『やってみよう』思いを止めてしまう自分もあり、迷ってしまいました」と話すのは、ながはま冒険あそび場つくりの会世話人の川瀬順子さん。

川瀬さんは、県社会福祉協議会が主催した冒険遊び場の講演会で、「子どもはアメー

遊びとは生きる力の源

子どもにとって遊びとは、「自分が生き、他人を生かし、人として成長し、共に生きていく力の源」といわれます。遊びを通して、自主性やものごとをやり抜く気力、創意工夫する力、協調性、思いやり、まわりの人とのコミュニケーション能力、忍耐力、判断力、勇気、危険を回避する安全能力などを体得していきます。*

失われる三つの「間」

子どもたちは塾通いや習い事などに忙しく、近所にも子どもがいなかったりします。友達同士で遊ぶ「時間」、子どもが自由に遊べる「空間」、近所の友達や異年齢の子ども同士が遊ぶ「仲間」という、子どもの遊びに必要な三つの「間」が失われつつあるといえます。

また、最近の子どもは、自尊心（自己肯定感）が低い傾向にあり、その一因として「体験活動不足」、「群れ遊び不足」、「コミュニケーション機会の減少」があるようです。冒険遊び場では、子どもたちが自由な発想で遊べる環境

バのように柔軟な発想や好奇心で、手や足、心を様々な伸ばすのが本来の姿。今の大人は、自分の思い描く型にはめた『小さな大人』を育てようとしている」という講師の話を聞いたとき、ハッと、冒険遊び場への関心が高まりました。



2



3



4



5

1 ロープ遊び、落ちこそう！ 2 自分が作ったリングジュース、おいしかったよ 3 力と知恵を使って秘密基地づくり 4 あちちち…焼けたかな 5 竹パン早くできないかな 6 水たまりで競走だ



6

や仲間が集まる場所を提供しています。失われつつある三つの「間」を取り戻す場として期待されている「冒険遊び場」…その取組みを紹介しましょう。

※1 「遊びの力」遊びの環境づくり30年の歩みとこれから」(大村璋子、大西宏治、齋藤啓子、首藤万千子、関戸まゆみ著、萌文社)より抜粋